様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年６月１１日現在

機関番号：34316
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2010～2011
課題番号：22760448

研究課題名（和文）
欧州都市のジェントリフィケーションへの対応策と多文化共生へ向けた都市戦略

研究課題名（英文） Countermeasures for gentrification and urban strategy for multicultural society in European cities

研究代表者
阿部　大輔　（ABE DAISUKE ）
龍谷大学・政策学部・准教授
研究者番号：50447596

研究成果の概要（和文）：
本研究では、欧州都市の中でも都市再生の先進的事例として知られているバルセロナ(スペイン)、ビルバオ（スペイン）、トリノ（イタリア）、マルセイユ（フランス）、ベルリン（ドイツ）等を対象に、①都市再生政策の実態を把握し、②都市再生の結果生じたジェントリフィケーションによる地区変容の現状と移民コミュニティの諸課題を特定するとともに、③そうした負の側面に対する地域からの自律的な取り組みならびに都市政策上の対応を検討した。空間的アプローチの観点からは従来にも増して公共空間の意味が重要性を増しており、わけても空間設計だけではなくそこでの多様な活動プログラムの展開が政策の鍵を握っている。こうした空間整備に加えて、一定の社会住宅の整備や住民のエンパワーメントを支援する社会プログラムを同時並行的に実施することで、多文化を混淆させる新たな価値創造を目指している現状が明らかになった。

研究成果の概要（英文）：
The main issues discussed in this project are (1) urban regeneration policies in the leading European cities such as Barcelona (Spain), Bilbao (Spain), Turin (Italy) Marselle (France) and Berlin (Germany), (2) how the socially vulneable neighbourhood areas in such cities have been affected by a gentrification process, and (3) how those areas have approached to maintain social coherenve in neighbourhood level. The experiences of regenerated cities reveal that a concept of neighbourhood management after achieving certain level of built environment should be called into question and socio-cultural diversity of neighbourhood remains a continuing key strategy for future. İn planning-strategy terms, the combined approach of rehabilitation-creation of public space and social housing and social programs such as education-employment training provides flexibility that can make socially vulnerable districts more comfortable to live in and have social inclusion with the adjacent community.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2010 年度	1,500,000	450,000	1,950,000
2011 年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
年度			
総　計	2,500,000	750,000	3,250,000,

研究分野：工学
科研費の分科・細目：建築学、都市計画、建築計画
キーワード：都市再生、欧州都市、ジェントリフィケーション、多文化共生、移民、公共空間

１．研究開始当初の背景

洋の東西を問わず、都市再生の試みが開始されて久しい。規制緩和による大規模再開発を前提とするなど経済の論理に従属的なわが国の都市再生政策に比して、基礎自治体主導で、当該地域の歴史的背景や社会的状況を尊重した持続的で積み上げ型の都市計画を展開してきた欧州の経験は示唆的であり、これまでわが国において各国の事例研究が幅広く取り組まれてきた。

本研究の対象都市における近年の環境再生の試みは、ひとまず成功裏に終わったと認識されているが、一方で疲弊市街地が「再生」した結果、ジェントリフィケーション（地区の高級化）が発生し、ミドルクラスの芸術家や高学歴の若者らが移り住み、旧来からの界隈の変質を余儀なくされている地区が少なくない。

都市再生の「成功」に起因する家賃の上昇は、相対的に貧困な居住層をその地域から排除していく。ジェントリフィケーションがもたらす弊害は、1960 年代中頃から指摘されており（Atkinson et.al, 2008）、都市再開発と既存コミュニティの崩壊を問う問題設定自体は新しいものではない。しかし、近年の都市再生の流れで着目すべきは、新たな居住層としての国内外からの貧しい移民の存在である。移民の多くは経済力が脆弱であり、ジェントリフィケーションの悪影響を最も端的に受けるのである。

近年、事業の目玉として集中的に整備された「再生地区」の周縁に新たな移民層が流入し、旧来からの居住層との文化的軋轢を生じているケースもある。例えば再生事例として名高いバルセロナの旧市街では、空間的な再生の一方で、地区の魅力に少なからず貢献している様々なエスニック・グループとスペイン人居住層の共存の問題が顕在化している。すなわち、ジェントリフィケーションの発生と並行して、出自の異なる様々な民族との共生が新たな都市問題として浮上しているのである。わが国のまちづくりにおいても、多文化共生の取り組みは今後避けて通れない問題となることが予想される（三宅 2009）。

【参考文献】
- ATKINSON, Rowland & BRIDGE, Gary (ed). *Gentrification in a Global Context. The new urban colonialism,* New York: Routledge, 2008.
- 三宅理一：『負の資産で街がよみがえる』、学芸出版社、2009 年

２．研究の目的

従来の欧州都市再生の研究は、疲弊市街地が再生に至るまでの都市政策・制度、アーバンデザインの実際、現実に再生された空間の評価といった側面に力点が置かれ、再開発の負の側面を自覚的に検討してきたとは言い難い。再開発の悪影響に関する研究の蓄積が比較的多いのは都市社会学の分野だが、そこではジェントリフィケーションに警鐘を鳴らしたり、多文化共生政策の重要性を指摘したりといった認識論の範疇での分析は多く見られるものの、そうした課題にどのような空間的対応や計画論的アプローチが可能かといった議論はいまだ深まりを見せていない。

疲弊市街地におけるジェントリフィケーションのコントロールや多文化共生の取り組みは、激しい都市間競争の一方策として観光政策が大々的に推し進められている昨今、あるいは都市の広告としての都市再生のアピールが全盛の昨今、すなわち「ポスト都市再生」のいまだからこそ、その重要性が問われている。

本研究は、従来の研究で見落とされがちだった再開発後の地区の変容、特に移民層と新居住者層との共生の可能性、そして再開発後の都市マネジメントの戦略の検討こそが持続可能なまちづくりにとって不可欠であるとの立場に立脚し、

① 各都市の疲弊市街地における都市再生戦略の概要を社会的背景、都市計画技術、事業の仕組みの各側面について明らかにする
② 都市再生の結果生じたジェントリフィケーション（地区の高級化）による地区変容の現状と移民コミュニティの諸課題を特定する
③ そうした負の側面に対する地域からの自律的な取り組みならびに都市政策上の対応を把握する
④ 様々な人種・階層が住まう多文化共生へ向けた都市戦略の展望を多角的に考察する

ことを目的とした。

なお、調査の対象としたのは、バルセロナ、マドリード、ビルバオ、タラゴナ（以上、スペイン）、マルセイユ（フランス）、トリノ（イタリア）、アムステルダム（オランダ）、ベルリン（ドイツ）の各都市であった。

３．研究の方法

研究の方法は、一時資料の収集と読解、現地における空間調査ならびに関連組織へのインタビューに依拠する。H22 年度は、資料集ならびにデータベース構築を行った。研究に必要な資料および関連研究論文の収集を行った上で、国内外における既往研究成果をさらに整理し、これまでの論点ならびに研究上の空白部分を特定した。現地調査について、各都市の都市計画担当部局や整備公社（欧州では再開発にあたり官民が共同で出資して混成会社を設立する方法が一般的である。例えばバルセロナの旧市街振興公社等）にヒアリングを行い、疲弊市街地の再生の問題がプランナーの側からどのように捉えられていたのかを明らかにするよう努めた。H23 年度は、地区レベルでの既存コミュニティの維持・強化ならびに多文化共生をテーマに掲げ活動を展開している地元住民組織へのインタビューを重視した。

４．研究成果

ジェントリフィケーションや多文化共生の観点から見た都市再生の先進事例の再評価ならびに新たな都市戦略の可能性を主題に設定し、研究を進めた。

都市再生と社会的排除のテーマを解明するにあたり、

① 都市化の過程で初期は国内移民、後に国外移民の受け皿となってきた、都市拡大成長期に建設された郊外部の大規模住宅団地
② 都市化の過程で初期は高密化とその後の空洞化を経験し、後には移民地区化、現在ではジェントリフィケーションによりサービス産業化している歴史的市街地

を対象とした。

①型として、カンプ・クラー地区（タラゴナ）、クロイツベルグ地区（ベルリン）、②型として、バルセロナの旧市街、ビルバオのサン・フランシスコ地区およびラ・ビエハ地区、マドリードのラバピエス地区、トリノのポルタ・パラッツォ地区、マルセイユ旧市街を取り上げ、分析した。

②型の場合、伝統的なコミュニティとの軋轢やジェントリフィケーションによる住民層の変質といった問題が顕著であり、むしろそうした摩擦をきっかけとしてお互いが知恵を出し合い、公共空間の使い方等のまちのルールづくりにまで発展させようとするケースが確認できる一方で、①型では、地理的な困難もあり、社会的統合への試みは容易でないことが明らかとなった。

分析対象都市は、いずれも物的環境整備としての問題市街地の修復プログラムを有しているが、行政による多文化共生を含む社会プログラムを有するのはバルセロナ、タラゴナ、ベルリン、トリノ、マルセイユである。ジェントリフィケーションへの対応策として代表的なのは地価の高騰による追い出しを防ぐための家賃コントロールであるが、それを除くと都市計画的観点からの明確な方法は確立されていない。むしろ、ベルリンやバルセロナの例で判明したように、公共空間の質を高めることが、結果として地区のジェントリフィケーションを惹起し、空間の私有化を進めてしまう危険性がある。しかし、行政による社会的包摂プログラムが様々な地区で戦略的に活用されており、そのプロセスにいかに多様な利害関係者が関与していくかが問われている。

その代表的な取り組みとして、ドイツの「社会都市」プログラム、トリノ市の The Gate プロジェクト、スペイン・カタルーニャ州の「界隈法」に着目し、移民に代表される社会的弱者の居住環境や包摂が都市政策の中でどのように位置づけられ、実際の空間として還元されているのか把握した。特にトリノとカタルーニャの例に顕著だったのが、公共空間整備の政策上の重要性である。問題市街地において、公共空間の持つ意味は少なくない。そうした地区では往々にして公共空間の面積は少なく、また個々の住宅が狭小のため使用可能な空間が少ないこともあり、都市活動の舞台としての公共空間が希求される状態にある。したがって、公共空間の拡大と回復は、界隈の生活の質を向上し、共有空間における多文化共生の問題を解決するために不可欠なテーマであるといえる。いずれの取り組みも、公共空間の整備や住宅の修復といった従来の物的環境整備に加えて、ジェンダー問題の解決や機会均等の実現、雇用教育プログラムといった社会的包摂の措置をひとつの都市政策として盛り込んでいるが、投資額ならびに実効性の面からは依然としてより有効な政策展開の余地を残している。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計７件）

① 阿部大輔「欧州都市にみるポスト都市再生時代にみる新たな景観像の可能性：ジェントリフィケーションと多文化共生の観点から」『景観の計画的リビジョン２　景観からの価値創造』（日本建築学会大会（北陸）都市計画部門研究協議会資料）、pp.43-44、2010、査読なし
② 前田英寿・遠藤新・阿部大輔「開かれたまちづくりの場　アーバンデザインセンター研究会の中間報告」『共創時代の都市

デザイン像　景観の計画的リビジョン』（日本建築学会大会（北陸）都市計画部門研究協議会資料）、pp.79-82, 2011、査読なし

③ 阿部大輔「都市再生におけるサステイナビリティ概念の再構築：スペインの経験から」『インクルーシブ・アーバニズムへの挑戦：バレンシア／バルセロナにおける公共空間・多様性・政策』、*Sustainable Urban Regeneration*（東京大学 GCOE プログラム「都市空間の持続再生学の展開」研究報告誌）、No.14、pp.4-5、2012、査読なし

④ 阿部大輔「バルセロナのアーバンデザイン：公共空間・多様性・政策」『インクルーシブ・アーバニズムへの挑戦：バレンシア／バルセロナにおける公共空間・多様性・政策』、*Sustainable Urban Regeneration*（東京大学 GCOE プログラム「都市空間の持続再生学の展開」研究報告誌）、No.14、pp.46-49、2012、査読なし

⑤ 阿部大輔「EU における政策課題としての多文化共生：都市再生政策」『インクルーシブ・アーバニズムへの挑戦：バレンシア／バルセロナにおける公共空間・多様性・政策』、Sustainable Urban Regeneration（東京大学 GCOE プログラム「都市空間の持続再生学の展開」研究報告誌）、No.14、pp.62-64、2012、査読なし

⑥ 阿部大輔「情報通信産業の集積を通した旧工業地域の再生への試み ： バルセロナ・ポブレノウ地区の 22@BCN プロジェクトを事例として」『龍谷政策学論集』、pp.101-107、2012、査読なし

⑦ 阿部大輔「ヨーロッパのアーバンデザインの歩み」、10+1 web site、2011 年 11 月、査読なし

〔学会発表〕（計２件）

① Daisuke Abe, “Tourism, Gentrification and NeighbourhoodManagementin Regenerated-Cities: Towards a Post-regeneration urbanism”, the 6th International Forum on Urbanism, January 2012, Universitat Politècnica de Catalunya (Barcelona), Proceeding 査読有り

② 関谷進吾・前田英寿・阿部大輔「欧州主要都市における都市情報発信拠点」『日本建築学会大会学術講演梗概集』、pp.629-630、2011、査読なし

６．研究組織

(1)研究代表者

阿部　大輔 (ABE　DAISUKE)

龍谷大学・政策学部・准教授

研究者番号：50447596

(2)研究分担者

（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者

（　　）

研究者番号：